

第四回日中合同調整委員會會議議事録

JICA 中国住宅新技術研究与人才培训中心项目  
2000年3月24日

## 第4回日中合同調整委員会会議事録

開催月日:2000年3月24日(金曜日)10:00-12:00

場所:中国建築技術研究院 第1会議室

出席者:中国側:頼明 葉耀先など 計13名

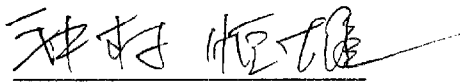
日本側:佐藤啓二 松澤憲夫 沖村恒雄等 計14名

### 目 次

1. 開会、議長挨拶(中国建築技術研究院 張副院長)
2. 出席者紹介
3. 中国代表挨拶 (建設部科学技術司 頼明司長)
4. 日本代表挨拶 (調査団 佐藤団長)
5. 事業総括、事業計画  
中国側:実施責任者  
日本側:チーフ・アドバイザー
6. 協議、懇談
7. 関係者挨拶  
JICA 中国事務所 松澤所長
8. 閉会

本議事録は日本文及び中国文を作成し、日中双方が1通ずつ保有する。

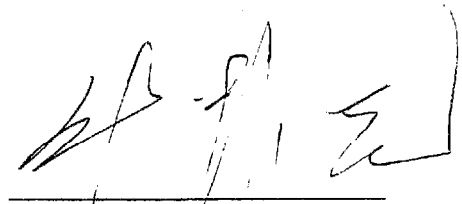
2000年3月24日



沖村恒雄

チーフ・アドバイザー

中国住宅新技術研究・人材育成センター



葉耀先

実施責任者

中国住宅新技術研究・人材育成センター

別添

1. 第4回日中合同調整委員会議事録次第
2. 第4回日中合同調整委員会参加者名簿
3. 代表挨拶
  - (1) 頼明建設部科学技術司長
  - (2) 佐藤啓二終了時評価調査団長
4. 中国側事業報告(葉耀先顧問)
5. 日本側事業報告(沖村恒雄リダー)
6. 関係者挨拶
  - 松沢憲夫 JICA 事務所所長

中国住宅新技術研究・人材育成センタープロジェクト

## 第4回 日中合同調整委員会議事次第

開催月日 2000年3月24日（金）

開催場所 中国建築技術研究院 第1会議室

- |       |                 |                 |
|-------|-----------------|-----------------|
| 10:00 | 1. 開会 議長挨拶      | 建築技術研究院張軍副院長    |
| 10:05 | 2. 出席者紹介        | 葉燿先顧問、沖村恒雄リーダー  |
| 10:15 | 3. 中国代表挨拶       | 建設部科技司頼明司長      |
| 10:25 | 4. 日本代表挨拶       | 佐藤啓二調査団団長       |
| 10:35 | 5. 中方事業報告と事業計画  | 葉燿先顧問           |
| 11:50 | 6. 日方事業報告と事業計画  | 沖村恒雄リーダー        |
| 11:05 | 7. 終了時評価調査団評価結果 | 佐藤啓二調査団団長       |
| 11:20 | 8. 協議、懇談        |                 |
| 11:50 | 9. 関係者挨拶        | 松澤憲夫JICA中国事務所所長 |
| 12:00 | 10. 閉会          |                 |



合同調整委員会

科学技術司頼明司長開幕挨拶

(口頭挨拶のみ)

合同調整委員会・日本側代表挨拶

第4回日中合同調整委員会の開催に当たり日本側を代表して一言ご挨拶を申し上げます。この「中国・住宅新技術研究・人材育成センター」プロジェクトは1996年8月に締結されたR/Dに基づき、1996年9月1日から2000年8月31日までの5年間実施されることとなっています。

いよいよ残り期間が5ヶ月となったことから、今般日中双方の関係者により終了時評価が行われることとなり、私共も3月13日から中国を訪問しこの間プロジェクト関係者からのヒヤリング、意見交換を行うと共に評価書作成のために一連の協議を進めてまいりました。事前に団員を派遣して実施した調査期間を含めるとほぼ20日間に亘って作業を行ったわけですが、この間、建設部をはじめとするプロジェクト関係者の皆さんの多大なご協力をいただきましたことに調査団長として心から感謝を申し上げます。

振り返りますとこのプロジェクトは1990年から3年間我が国が協力した「都市型小康住宅プロジェクト」の成果の上に立って2年余に亘る関係者の周到な準備の下にスタートしたのであり、現在中国国内におけるJICAプロジェクトとしてはもっとも規模の大きなものの一つとしてその最終成果に日中双方の大きな関心と期待が寄せられています。

評価案の内容については後程詳しくご説明しますが、私は今回の作業を通じてこのプロジェクトの夫々の分野において着実に計画が実施され素晴らしい成果が上がってきていることを確かめることが出来たと思っています。

この5年の間には当初予期しなかった様々な困難に直面したと思いますが、そうした中でこのプロジェクトの成功が目前になっているのは本当に中国建設部の適切な指導、多大な支援とC/Pの皆さんの熱心な研究活動があったからだと思っています。

尊敬する頼司長をはじめとする建設部のリーダーの皆さんと親愛なる葉顧問をはじめとするC/Pのリーダーの皆さんに衷心から感謝を申し上げます。

また残された5ヶ月を有効に活用し最終的な成果を更に素晴らしいものとしていただきますよう宜しくお願いいたします。

最後になりましたが、本日の合同調整会議の中で後程報告する評価書案について有意義な意見交換がなされる中で日中双方の合意が得られ、今後の更なる日中技術協力に向けた大きな信頼の基盤が作られることを期待して挨拶といたします。

# 中国住宅新技術研究・人材育成センタープロジェクト

## 事業報告

1995年9月1日～2000年2月29日

プロジェクト実施責任者

中国住宅新技術研究・人材育成センタープロジェクトは1995年から開始し、8月末までに終了する予定です。今現在、計画通りに進んでいます。中日政府とプロジェクト実施機関はいろいろ努力して、プロジェクトが計画通りに完了する為の基礎を建てました。

### 1. 組織管理

- 1) 中日双方プロジェクト実施責任者、建設部関係部門、プロジェクト実施機関はよくお会いしてプロジェクト進行中の問題点を調整、解決しました。
- 2) 日本専門家とともにプロジェクトの段階計画、技術者の研修計画及び短期専門家計画を作成しました。
- 3) 供与機材及び携行機材の免税、運送手続き等を行ないました。
- 4) 日本側に免税、交通など特許便宜を提供しました。専門家と家族為の再入国ビザの手続きを行ないました。

### 2. 新技術研究

#### 1) 計画・設計研究

##### (1) 農村地域集住地区集合住宅計画・設計研究

天津、北京、四川、重慶、広東、江蘇、浙江、遼寧、山東等 1705 戸の農村住宅に実態調査を行ない、得られたデータを開発されたソフトを利用して、データ入力と研究分析を行ないました。〈中国における農村地域集住地区集合住宅に関わる総合報告〉、〈中国における開発途上の地域農村地域集住地区住宅に関する調査報告〉及び〈中国における農村地域集住地区集合住宅設計指針〉、〈農村地域集住地区集合住宅施設設備研究〉の案を完成し、農村地域集住地区集合住宅設計図書案を基本に完成しました。これからは〈農村地域集住地区集合住宅設計指針〉、〈農村地域集住地区集合住宅施設設備〉を完成し、農村地域集住地区集合住宅設計図書を完成する予定です。

##### (2) 高齢者用集合住宅及び関連設備の研究

14 機関を組織して、全国における 12 都市の高齢者住宅に住まい方調査及び「広懐杯」高齢者住宅アンケート調査を実施し、800 部余りのアンケート、6000 枚余りの写真を回収し、データベースを整備し、データベースについて、分析・研究を行ないました。4 都市における養老院と高齢者マンションの 118 人の高齢者に戸内に発生事故の調査、高齢者人体寸法調査と高齢者用手すり調査を行ないました。その上で、〈高齢者用集合住宅設計指針〉、〈高齢者居住建築計画・設計マニュアル〉を作成しました。「香山繁榮秀通」高齢者センターの企画・設計を作成しました。同センターは既に 120 ベットを持ち、関連サービス施設、文化娯楽、健康訓練室等付属施設を備えたもので、1999 年 12 月にオープンされました。老年入居者の評



判を受けました。大連において、「夕陽紅」老年集合住宅の設計を終えた。第一期は建築面積 10 m<sup>2</sup>で、主に家庭養老として完璧なサービス施設を持っている中国全土において現在一番大きい規模の老人集合施設と言われる。これからは高齢者用集合住宅設計指針>案を完成する予定で、<高齢者居住建築計画・設計マニュアル>最終版を完成する予定です。

## 2) 住宅需要予測手法の研究

北京、天津、重慶などの家庭に居住状況や購入意向などの実態調査を行ない、受取った 15000 部の調査表に対して統計・分析を行ないました。予測モデルを作成しました。また、「中国 8 都市における家庭変化分析説明」と「住宅需要潜在力予測モデル報告」を完成しました。

## 3) 住宅施工研究

### (1) 住宅施工品質コントロール研究

「住宅施工品質コントロール」マニュアルを作成し、針貫入法によるコンクリート強度に関する試験研究、コンクリート内欠陥定量分析試験研究、高強度コンクリート疎密度ハマによる試験方法などの研究を行ないました。

### (2) 住宅施工管理研究

「住宅建設施工管理マニュアル案」を作成し、2 社の企業での実施を経て最終版を提出します。

## 4) 住宅部品の試験研究

厨房・衛生間用インターフェース研究に関して、厨房縦型タクトラップ試験と研究を完成し、厨房・衛生間標準設計図書の研究などを完成しました。部品開発について、小康型住宅用ガス給湯機の合作研究を完成しました。また床トラップ、衛生間用換気扇の開発を完成しました。住宅部品試験室について、衛生間総合試験設備の設計・制作・調整などを行ないました。他所の新規団地で性能試験を実施するとともに試験方法等の研究も行ないました。これからインターフェース設計細則、床トラップ、衛生間用換気扇試作品の完成と改善を行なう予定です。住宅部品データベースについて、「住宅部品分類表」を作成しました。データ入力、データベースの保守、視聴合成、データベース検索など 30 余りのソフトの作成・調整を行ないました。現在、72481 項目の部品データと 2225 のメカおよび部品画面 3199 枚があります。これから、引き続きデータベース応用ソフトウェアの完備とネット開発などを行なう予定です。

## 5) 住宅性能試験研究

住宅床衝撃音防止研究について、実験室測定条件改善と設備改善を行ない、実験室測定と分析を実施しました。中国国内における床遮音性の現状調査を行ないました。住宅遮音性の問題点に対して、それぞれの試験研究を行なって、床衝撃音防止遮音性能を作成し、床表面材による衝撃改善の試験方法と作業規定を作成しました。住宅窓・ドア新技術研究について、「大型動風圧層間変位試験装置」は既に国家試験室として認証され、運転に入りました。光環境研究について、「住宅光環境評価方法」の研究報告を完成しました。こ

れからは模擬光環境試験室を作り、光環境改善試験を行ないます。光環境試験方法と作業規定をまとめます。

### 3. 人材育成

人材育成について、60名の各分野専門家を要請して人材センターの客座教師と顧問となり、図書・資料室を作り、国内外住宅に関わる図書が千冊近く購入されました。住宅団地研修、住宅団地物業管理など42回の研修コースを行って、1572人が受講されました。中堅技術者研修は15回で、受講者503人です。視聴覚教室を利用してコンピュータネット受講を実現しました。中国住宅新技術・人材育成センター完成式典即ち実用的、衛生的、且つ良質な住宅に関するセミナー、中日住宅政策セミナー、環境未来セミナー、住宅品質・性能保証制度セミナー及び中国住宅政策・住宅金融制度セミナーなどを開催しました。

教材作成はすでに各分野の研究成果をまとめて教材を作成し、7分冊に分けて、現在作成中です。「住宅団地視聴覚教材」スライド、ビデオ教材も作成中です。

プロジェクト終了までに研修コース20回、セミナー2回を行なう予定です。「人材建設成人教育の探る」研究テーマを完成し、また教材製本と印刷を完成し、「住宅団地視聴覚教材」の作成も完成します。

住宅新技術研究人材育成センタープロジェクト  
第4回合同調整委員会

これまでの事業実績及び今後の事業計画

JICA 中国住宅新技術研究人材育成センタープロジェクト  
プロジェクトリーダー 沖村恒雄

これまでの事業実績についてご紹介します。

まず、専門家派遣ですが、

長期派遣専門家については、プロジェクト開始以来現在に至るまで、プロジェクトリーダー、業務調整員をはじめ、人材育成、計画・設計、住宅施工、住宅性能の各分野に計14名の長期専門家が派遣されてきました。

現在の体制は、プロジェクトリーダー：沖村恒雄、調整員：野田豊記、人材育成分野：山下浩一、計画・設計分野：徳留弘、住宅需要分野：沖村恒雄、住宅施工分野、住宅性能分野：小山朝久、住宅部品分野：山口佳春となっております。

短期派遣専門家につきましては、プロジェクト開始以来、1999年度まで、各分野合計で34名が派遣されてきました。

供与機材につきましては、専門家の技術移転業務を効果的に行うために必要なものが供与されてきました。その主な内容は、人材育成分野における研修用機材、住宅部品分野における住宅部品試験機材、住宅性能分野における住宅性能測定用機材などです。

供用機材につきましては、1995年度から1999年度までの各分野合計で既に3億円を超えております。

研修員受入れにつきましては、プロジェクト開始以来、1999年度までに、各分野合計で22名となっております。

各分野について、簡単にご紹介しますと、

人材育成分野については、人材育成センターの建設にあわせ視聴覚機材を供

与してまいりました。

また、研修の実施に向けて、カリキュラムの検討を行い、各研究分野の成果をまとめた教材の作成、スライド・ビデオといった視聴覚教材の作成を行って参りました。研修に関しましては、1997年度からは、3年間の予定で、中堅技術者養成のための研修費用についても支援してまいりました。

計画・設計分野につきましては、農村地域集住地区型集合住宅及び高齢者用集合住宅につきまして、共同調査を実施し、それぞれの設計指針、研修用教材草稿、及び高齢者用住宅建築設計マニュアルをまとめて参りました。

住宅需要予測分野につきましては、日本の住宅5ヶ年計画を紹介するとともに、中国の実状に即したモデルを開発して参りました。

住宅施工分野につきましては、施工技術の現状調査を実施し、施工管理技術マニュアル、施工品質管理マニュアル、を作成してまいりました。

住宅部品分野につきましては、住宅調査、企業調査、市場調査を実施し、住宅部品に関するインターフェース設計細則の作成、ガス給湯器・衛生間換気扇、衛生間用床トラップの開発、厨房・衛生間部品の試験方法開発及び厨房・衛生間部品のデータベースの構築を進めて参りました。

住宅性能分野につきましては、窓・ドア性能試験、床衝撃音防止試験光環境性能試験の試験方法の作成を行って参りました。

こうした技術協力の結果、  
住宅新技術研究・人材育成センターの組織と機能の確立  
農村住宅・高齢者住宅の設計技術の改善  
住宅需要予測手法の開発  
施工管理技術の改善  
厨房・衛生間住宅部品の改善  
住宅性能試験方法の改善

といった、当初の計画で成果として考えられていたものが、達成されると考えております。

次に、今後の事業計画についてですが

このプロジェクトの実施期間はあと5ヶ月となりました。

現在の長期専門家6名はプロジェクト終了時まで、引き続き、技術協力を行いますとともに

2000年度につきましては、引き続き、短期専門家の派遣、研修員の派遣、また、機材については、従来供与した機材にかかる実験用消耗品の補充、本体機材の補助機材等の供与等、さらに、終了前にセミナーを行うとともに、このプロジェクトの成果をまとめた報告書を作成したい、ということで、必要な経費をお願いしているところであります。

残された事業期間で、日中相互にこれまでより一層の緊密な協力を行うことにより、初期の目標が達成され、このプロジェクトが成功裏に終わるよう努めて参りたいと思っております、あわせて、この成果により、中華人民共和国の住宅水準がよりレベルの高いものとなりますよう期待しております。

今後とも、本日お集まりのみなさまを始めとする関係のみなさまのご協力をお願いしたいと思っております。

以上で、プロジェクトリーダーであります私からの、これまでの事業実績及び今後の事業計画についての説明を終わらせていただきたいと思います。

どうも有り難うございました。

## 住宅プロジェクト合同委員会

松澤 憲夫 所長挨拶

2000年3月24日

尊敬するご列席の皆様、まず、第4回中日合同調整委員会が成功裡に開催されましたことをお喜び申し上げ、中日双方関係者の方々のご苦勞に感謝申し上げます。

今般、同委員会に先立ち、評価調査が実施されました。ご承知のように、我が国のODAは国民の税金によって、まかなわれていることもあり、日本の国民の間に、国際協力に対する関心が高まっております。

そのため私共としましては、行った協力に対してどれだけの成果が得られたか、またどのような課題が残されたのかという、「協力の評価」を大変重要視しているわけでございます。

本プロジェクトにつきましても8月の終了を控え、これまでプロジェクトを支えていただいた中日双方の関係者によって、2週間に渡る評価作業を行っていただきました。

本日この場で披露されました評価結果については、プロジェクトで実施された6項目の活動全てに、一定の成果が得られ、当初の目標がおおむね達成できたとの報告をいただき、非常に嬉しく思います。評価の任にあたられた日中双方の委員の方々に心からの御礼を申し上げます。

また、プロジェクト実施を通じて得られたました中日双方の人と人との交流、中日の友好関係の促進も、私共が重視しているもう一つの大きな成果であることを強調させて頂きたいと思っております。

8月31日のプロジェクト終了日まで、残されたいくつかの課題について日中双方専門家の更なる努力が続けられるわけではありますが、私共 JICA 事務所としましては引き続き惜しみなく支援をしていきたいと考えております。

今後新たに建設部の協力をいただく案件としては、住宅金融に関する調査、住宅部品認定制度策定のための協力等が考えられております

が、このプロジェクトの実施を通して培われた双方の友好と友情が更に深められることを祈念して、私のご挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

## 第四屆中日聯合協調委員會會議紀要

JICA 中國住宅新技術研究與人才培訓中心項目  
2000年3月24日



## 第四届中日联合协调委员会会议纪要

召开日期: 2000年3月24日(星期五) 10:00-12:00

地点: 中国建筑技术研究院 第1会议室

出席人员: 中方: 赖明 叶耀先等 计13名

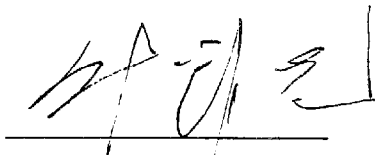
日方: 佐藤启二 松泽宪夫 冲村恒雄等 计14名

### 会议议程

1. 开会致辞 (中国建筑技术研究院 张副院长)
2. 介绍出席人员
3. 中方代表致辞 (建设部科学技术司 赖明司长)
4. 日方代表致辞 (调查团 佐藤团长)
5. 工作总结、工作计划  
中方: 实施负责人  
日方: 专家组长
6. 协商、讨论
7. 有关人员致辞  
JICA 中国事务所 松泽所长
8. 闭会

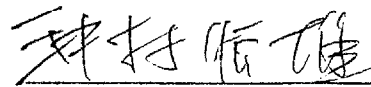
本会议纪要中日文本各1份,中日双方各保留1份。

2000年3月24日



叶耀先  
实施负责人

中国住宅新技术研究与人才培训中心



冲村恒雄  
专家组长

中国住宅新技术研究与人才培训中心

附件

1. 第四届中日联合协调委员会会议议程
2. 第四届中日联合协调委员会参加人名单
3. 代表致辞
  - (1) 赖明建设部科学技术司长
  - (2) 佐藤启二终结评估调查团长
4. 中方工作报告（叶耀先顾问）
5. 日方工作报告（冲村恒雄组长）
6. 有关人员致辞  
松泽宪夫 JICA 事务所所长

中国住宅新技术研究与培训中心项目  
第四届中日联合协调委员会会议议程

时间：2000年3月24日

地点：中国建筑技术研究院 第一会议室

- |        |              |                |
|--------|--------------|----------------|
| 10: 00 | 1. 开会（主持）    | 建筑技术研究院张军副院长   |
| 10: 05 | 2. 出席者介绍     | 叶耀先顾问、冲村恒雄组长   |
| 10: 15 | 3. 中方代表致辞    | 建设部科技司赖明司长     |
| 10: 25 | 4. 日方代表致辞    | 佐藤调查团团长        |
| 10: 35 | 5. 项目工作报告    | 叶耀先顾问          |
| 10: 50 | 6. 项目工作报告    | 冲村恒雄组长         |
| 11: 05 | 7. 评价调查团评价结果 | 佐藤调查团团长        |
| 11: 20 | 8. 协议讨论、会谈   |                |
| 11: 40 | 9. 有关人员致辞    | JICA 中国事务所松泽所长 |
| 11: 50 | 10. 闭会       |                |

## 第4回日中合同調整委員会参加者名簿

日 本 側	中 国 側
JICA終了時評価調査団団長 都市基盤整備公団土地有効利用事業本部 部長（協議覚書署名者）                      佐藤 啓二	建設部科技司                      赖明 司长  陈宜明 副司长 韩爱兴 处长
JICA終了時評価調査団団員 竹中工務店技術研究所主任研究員              萩原 忠治	建設部外事司                      崔复秋 处长 杨劲松 项目主管
JICA終了時評価調査団団員 国際協力事業団社会開発協力部              水口 佳樹	建設部設計司                      王早生 处长 建設部标准定额司                      譚 华 副处长
JICA終了時評価調査団団員 株式会社 設計計画                      駒沢 牧子	建設部政策研究中心                      文林峰 副研究员 中国建筑技术研究院                      叶耀先 顾问总工程师 （会议纪要签字者）
JICA終了時評価調査団団員 （財）国際協力センター、通訳              花園 遼	张 军 副院长 张文华 副处长
JICA中国事務所 所長                      松澤 憲夫 JICA中国事務所 所員                      糟谷 良久 JICA中国事務所 所員                      阮 薇	中国建筑科学研究院                      王有为 副院长 JICA 办公室                      韩毓芬 翻译
長期専門家（チーフアドバイザー）              沖村 恒雄 （議事録署名者）	
業務調整員                      野田 豊記	
長期専門家（住宅施工・住宅性能）              小山 朝久	
長期専門家（計画・設計）                      徳留 弘	
長期専門家（人材育成）                      山下 浩一	
長期専門家（住宅部品）                      山口 佳春	

## 联合协调委员会 科技司司长 赖明致开幕词

(口头致辞)

# 中国住宅新技术研究与培训中心项目 进 展 情 况 报 告

1995年9月1日~2000年2月29日

项目实施负责人 叶耀先

中国住宅新技术研究与培训中心项目于1995年启动，将于8月底结束。目前正按计划进行。日中两国政府和项目参加单位做了很多的工作，为项目的按期完成奠定了基础。

## 一、组织管理

1、中日双方项目实施负责人和建设部有关部门、项目参加单位负责人之间经常会面，及时沟通协调解决项目进展中的问题。

2、同日本专家组共同协商制定了项目阶段计划，派遣技术人员赴日研修计划及日方短期专家来华的计划等。

3、办理日方提供器材及办公所用器材的免税、提货等手续。对在中国采购的器材，成立了由中日双方组成的器材采购小组。对到货的国内外采购器材均进行了验收、安装、调试等工作。

4、为日方提供免税、交通等特许权力。办理了日方专家及其家属进入境等手续。

## 二、新技术研究

### 1. 规划设计研究

#### (1) 村镇规划设计研究

对天津、北京、四川、重庆、广东、江苏、浙江、辽宁、山东等地 1705 户进行了村镇住宅实态调查，对所有调查数据在计算机开发软件上进行了数据输入和分析研究。完成了《中国村镇住宅调查综合报告》、《中国欠发达地区村镇住宅调查报告》，和《村镇集合住宅设计导则》、《村镇住宅设施设备研究》的初稿，初步完成了村镇住宅方案设计图。下一步将完成《村镇集合住宅设计导则》、《村镇住宅设施设备研究》的定稿，完成村镇住宅方案设计图。

## （2）老年住宅及相关设施的研究

组织 14 个单位完成了全国 12 个城市的老年住宅居住实态调查及宏怀杯老年人居住实态问卷调查，共收到调查表 800 余份，照片 6000 余张，建立了数据库，进行了数据分析研究。在四个城市对养老院和老年公寓 118 位老人进行了户内事故调查、老年人人体尺寸调查和老年人用扶手调查。在此基础上完成了《老年住宅设计导则》、《老年人居住建筑规划设计手册》。完成了香山繁荣秀通老年住宅的策划和设计，该助老中心目前已建成 120 余张床位，配置相应生活服务、文化娱乐、健身康复等的配套设施，并于 1999 年 12 月开张，受到老年居住者的认可。完成了大连夕阳红老年住宅社区的设计，首期工程 10 万平方米建筑面积，主要以家庭养老模式和完善的配套服务共同构成养老模式，该社区是全国目前规模最大、配置最全、档次最高的老年人安度晚年的乐园。下一步将完成完成《老年住宅设

计导则》修编稿、《老年人居住建筑规划设计手册》终审稿。

## 2. 住宅需求预测方法研究

对京、津、渝等城市住户进行了家庭居住状况及购买意向等的实态调查，收到调查表 15000 份，并对数据进行了统计分析。调整了预测指标体系，建立了预测模型；完成了《中国八城市家庭变化分析说明》和《住宅需求潜力预测模型报告》。

## 3. 住宅施工研究

### (1) 住宅施工质量控制研究

完成了《住宅施工质量控制》手册的编写以及针贯入法检测混凝土强度的试验研究，混凝土内缺陷定量分析试验研究，高强混凝土的回弹法，超声回弹综合法测强技术研究等系列相关配套的科研项目。

### (2) 住宅施工管理研究

完成了《住宅建设施工管理手册（初稿）》的编写。经送两家企业组织实施后修改定稿。

## 4. 住宅产品试验研究

在厨、卫产品接口技术研究方面，完成了住宅厨房竖向烟道排油烟机实验与研究，进行了厨房、卫生间标准设计图研究等工作。在产品开发方面，完成小康型住宅用燃气热水器合作开发，正在进行地漏、卫生间通风器的开发。住宅产品试验室完成了卫生间综合试验设备的设计、制作、调试工作。完成了住宅厨、卫产品的调试工作，在多处新建小区进行了性能测试，



同时进行了实验方法的研究等。下一步将完成接口设计细则，地漏、卫生间通风器样机测试及修改，完成相关产品试验的文件。在住宅产品数据库方面，完成了《住宅产品分类表》的编制，数据录入、数据库维护、音像合成、数据库检索 30 多个软件的编制和调试，目前库存有效产品数据 72481 项，生产厂家 2225 家，产品图象 3199 幅。下一步将继续完善数据库应用软件系统并开发网络版系统。

#### 5. 住宅性能实验研究

住宅楼板撞击声研究方面：进行了实验室测试条件和设备的改善，进行了实验室测试和分析。对国内楼板隔声现状进行了调查，针对住宅楼板隔声存在的问题，在试验室对改善楼板隔声的各种途径进行了试验研究，制订出测试楼板撞击声隔声性能，以及测试楼板面层材料对撞击声改善量的试验方法和操作规程。在住宅门窗新技术研究方面：“大型风动压及层间变位实验装置”已通过国家实验室计量认证投入运行。在住宅室内最佳光环境研究方面：完成了《住宅光环境评价方法》研究报告。下一步将通过测试研究，总结出一批能达到国家隔声标准关于一二级分户楼板要求的实用楼板构造形式，使住宅环境质量上一个新台阶；总结编写门窗领域各项物理性能试验方法和操作规程；建立模拟光环境试验室，改变光环境进行试验，从理论和实践结合上提出光环境的推荐值，总结编写光环境试验方法和操作规程。

### 三、人材培训

在培训方面：组建了专家讲师团，确定了 60 名各专业的专家、教授担任客座教师和顾问。建立了图书资料室，购置国内外住宅图书资料近千册。举办住宅小区规划设计、小城镇规划设计、住宅小区物业管理等培训班共计 42 期，培训人数 1572 人，其中骨干班 15 期，503 人。利用多媒体教室举办多期培训班，实现了计算机联网教学。举行了中国住宅新技术研究与培训中心项目培训基地落成典礼暨适用、卫生优质住宅研讨会、中国住宅新技术研究与培训中心开班仪式暨中日住宅政策、环境、未来研讨会、中日合作住宅质量及其保证制度研讨会、国际合作中国住房政策及住房金融制度研讨会。

培训教材的编写：组织各有关单位编写五个领域研究成果教材，共七个分册，目前编写工作正在进行。“住宅小区视听教材”幻灯片制作已完成，录像制作正在进行。

项目结束前将举办各类培训班 20 余期、研讨会 2 次。完成“建设人才成人教育的探讨”研究课题。完成教材的编写和印制。完成“住宅小区视听教材”视听教材的制作。

2000 年 3 月

住宅新技术研究与人材培训中心项目  
第四届联合协调委员会

过去的工作报告及今后的工作计划  
JICA 中国住宅新技术研究与人材培训中心项目  
项目组长 冲村恒雄

介绍过去的工作情况。

首先介绍专家派遣。

从项目开始至今以专家组长、业务协调员为首在人材培训、规划·设计、住宅施工、住宅性能各领域共计派遣了 14 名长期专家。

目前的体制是项目组长:冲村恒雄、协调员:野田丰记、人材培训领域:山下浩一、规划·设计领域:德留弘、住宅需求预测领域:冲村恒雄、住宅施工领域:小山朝久、住宅产品领域:山口佳春。

关于短期专家派遣,自项目开始以来到 1999 年度各领域共计派遣 34 名。

关于援助器材,提供了专家有效进行技术转让业务所需要的器材。主要包括人材培训领域研修用器材、住宅产品领域住宅产品试验用器材、住宅性能领域住宅性能测量用器材。

1995 年度至 1999 年度总计援助器材已超过 3 亿日元。

关于接受研修生,项目开始以来到 1999 年度各领域共计接收 22 名研修生。

简单介绍各领域情况。

人材培训领域配合人材培训中心建设提供了视听器材。针对研修实施进行了课程研究,将各研究领域成果总结、编写成教材并编制视听教材。从 1997 年度起计划 3 年内在研修方面支援了用于技术骨干培训的研修经费。

规划·设计领域对村镇地区集合住宅及老年集合住宅实施了共同调查,分别编写了设计导则、研修用教材初稿以及老年住宅建筑设计手册。

住宅需求预测领域介绍了日本住宅 5 年计划,开发了符合中国国情的模型。

住宅施工领域实施了施工技术现状调查,正在编写施工管理技术手册、施工质量  
管理手册。

住宅产品实施了住宅调查、企业调查、市场调查、编制了住宅产品接口设计细  
则、开发煤气热水器、卫生间换器扇、卫生间用地漏,建立了厨房·卫生间产品的  
试验方法及厨房卫生间产品数据库。

住宅性能领域正在编写门·窗性能试验、楼板撞击声防止试验、光环境性能试  
验方法。

技术合作的成果有

确立住宅新技术研究与人材培训中心的组织和功能

改善村镇住宅、老年住宅设计技术标准

开发住宅需求预测方法

改善施工管理技术

改善厨房·卫生间住宅产品

改善住宅性能试验方法

可以认为这是当初计划的成果,认为已经完成。

今后的工作计划

项目实施时间还有 5 个月。

现在 6 名长期专家到项目结束继续进行技术合作。同时,在 2000 年度仍要继续  
派遣短期专家、研修生,另外对已提供器材补充试验用消耗品和器材的配件等。  
并在项目结束前举行研讨会,提交项目成果总结报告,为此还需要必要的经费。

在所剩的时间里希望中日双方共同努力,更加紧密合作,为达到计划目标、使  
项目取得圆满成功而努力。并期待着通过我们的成果使中华人民共和国的住宅水  
平更加提高。

今后仍希望得到以今天到会的各位为首的有关人员的大力支持。

以上是我以项目组长做的工作报告和今后的工作计划。

谢谢。